

地質情報展しずおか「プレートの出会う場所で」

地質情報展事務局¹⁾

2003年9月19日(金)～21日(日)の3日間、静岡市にある静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」のギャラリーを会場にして地質情報展を開催しました。3日間で1,400名をこえる市民の方々に来場いただきました。来場者の方の多くはこのイベントに関心を持っていらした方ですが、地質には素人の一般の方がほとんどですから、初めて覗く岩石顕微鏡に驚き、日頃あまり耳にしない地質や活断層の説明に聞き入っていました。

この催しは、産総研地質調査総合センターと日本地質学会との共催によって、毎年、日本地質学会の年会に合わせた開催地と日程で行われています。今回は7回目となりました。静岡地域の地質、活断層、天然ガスや鉱物資源、東海沖の海底地質、富士火山や東海地震のことなど、地質に関する様々なテーマの研究成果や地質情報の展示に加え、実際の岩石や堆積物に触れたり、アンモナイト化石のレプリカを作ったり、模型で地質現象を再現してみたりという体験コーナーなどを会場いっぱい展開しました。

また、今回は地質学会生涯教育委員会及び学校教育委員会との協同により、地元静岡のみならず近隣の博物館や高校地学クラブからの展示コーナーも設けられました。

今回は、事前のPRとして、2度にわたる小中学校、高校へのポスター・チラシの配布を行いました。さらに静岡市広報誌へ案内を掲載していただき、開催直前には地元静岡のFM局の番組でのインタビュー放送、開催初日の朝刊への記事掲載等、恵まれた環境のスタートとなりました。開催初日にはテレビ・新聞の取材を受け、夕方のNHKニュースでの放映や翌日の新聞記事など、これまで以上に



写真1 NHKのインタビューを受ける湯浅地質調査情報部長。

効果的な宣伝ができたと考えていました。しかし後日、来場者アンケートを見ると、「もっと早めに案内をして欲しい」「ポスターだけでなくパンフレットによる宣伝が必要」という声もあり、宣伝の面でさらに努力が必要かと考えさせられました。それでも今回、地元小学校から学年ぐるみで来場というケースが複数あり、その時間帯の会場は大にぎわいになりました。



写真2 来場された方々で賑わう会場。

1) 産総研 地質調査情報部 湯浅真人, 名和一成, 増田幸治, 河村幸男, 吉田朋弘, 川畑 晶, 中島和敏, 地質標本館 谷田部信郎

キーワード: 静岡, 地質情報展, 日本地質学会, 普及活動



写真3 石の成因と見分け方のコーナー。

会場のグランシップは、東静岡駅前という立地ではありましたが、ほかに目立った集客施設はなく、また地質学会会場の静岡大学との間の交通の便が悪いことから、昨年の新潟の会場同様のマイナス面が考えられていました。しかし、昨年も感じたことですが、来場者確保に不利な条件である反面（だからこそ）、このイベントを目的に来て下さる方が集まるわけで、皆さん熱心にご覧になられるし、会場滞在の時間も長くなるように感じられます。フロアで案内するスタッフには、総入場者数の何倍もの方が会場におられたように感じられました。

アンケートの回答の中で、ご意見を具体的に書いて下さった文章を見ますと、学校の先生から「展示ポスターを授業で使いたい」というご要望や、「丁寧な説明で良く分かった」というような感想とともに、他県から来られた方から「自分のところでもこのような催しをして欲しい」というご要望がありました。北海道から沖縄まで、地質は地域ごとに違ってきますし、どなたも関心があるのはやはりご自分の住んでおられる地域の地質です。そういう意味で、地質学会の年会開催に合わせて、毎年地域を変えて情報展を行うことは意味があることと思っていますが、一方で「来年も（ここで）このような催しをして欲しい」というご意見もあります。今回訪問した静岡市では、「毎年市内の小学校の校庭で、実際にボーリングをしてみせて、小学生に地学の面白さを知らせている」という地質調査会社の社長さんにお会いしました。地質を学ぼうとする学生が少なくなっているという話を耳にしますが、「机上の学問ではない地学」にふれさせることによって、子供達の



写真4 地質図を壁と床に貼った自分の町の地質を知ろうのコーナー。

関心を高めることは可能だと考えますし、地学だからこそ全国各地でいろいろな方法で展開できるのではないかと考えています。

産総研では今、アウトカム評価が重要だということが言われています。研究成果のアウトプット（例えば地質図幅）が、社会にどのように役立っているのか、そこを具体的に評価しようという試みがアウトカム評価です。私たちは、地質情報展が、地質情報の主要ユーザーの一つの柱である一般市民のみなさんに、産総研で生産される地質情報がどのように役立っているのか、対話を通じて確認できる場であると考えています。私たちが対応できる来場者数は千数百名（1回の地質情報展）という数で、遅々たる歩みではありますが、一方通行ではない成果普及活動を行っているという自負が、主催する私たちに生まれて来ています。来年度は千葉市にある県立中央博物館を開場に開催する予定です。地質ニュース読者の皆様も、是非ご来場いただき、ご意見をお寄せいただきたく、お待ち申しあげています。

最後になりましたが、今回の地質情報展開催にあたりましてご尽力いただきました静岡大学のスタッフの皆様、ご後援をいただきました各機関（静岡大学、静岡県、静岡県教育委員会、静岡市、静岡市教育委員会、社団法人静岡県地質調査業協会、静岡県地学会）に感謝いたします。

Working group of Geoscience Exhibition in Shizuoka (2004) : Geoscience Exhibition in Shizuoka.

< 受付：2003年12月1日 >